

# 芦安小中学校 学校関係者評価書(前期)

令和5年8月31日(木)

芦安中学校区学校運営協議会作成

## 第1回芦安地区学校関係者評価委員会(第2回芦安中学校区学校運営協議会)

実施日:令和5年8月29日(火)

会場:南アルプス市立芦安中学校 多目的室

### 〈芦安中学区学校運営協議会委員〉

会長 森本 章雄(芦安地区学校応援団代表)  
副会長 小林 麻梨(芦安小中学校PTA副会長)  
委員 有野 敏也(元南アルプス市みんなで支える芦安協議会代表)  
委員 伊東 隆雅(芦安地区保護司)  
委員 岡崎 幸子(芦安小中学校PTA会長)  
委員 倉園 光代(主任児童委員)  
委員 清水 実(芦安子を守る会会長)  
委員 塚原 利幸(芦安窓口サービスセンター長)  
委員 内藤 薫(小学校保護者)  
委員 名取 昭彦(南アルプス市教育委員 元芦安小学校・校長)  
委員 名取 大介(学校応援団コーディネーター)

### 〈学校職員〉

小学校 根津 盛吾(芦安小校長 芦安中学校区学校運営協議会委員)  
河野 太郎(芦安小教頭)  
中学校 矢吹 和信(芦安中校長)  
深澤 和博(芦安中教頭)

### 〈助言者〉

南アルプス市教育委員会 横小路 亮(学校教育課指導監)  
清水 洋孝(学校教育課指導主事)

## 1. 学校側からの提案した内容

- ① 学校評価の方法について
- ② 評価の全体的な傾向について
- ③ 持続可能な学校経営・運営について

## 2. 検討していただいた主な内容

- ① 各項目の評価・達成状況・改善策について
- ② 芦安小中の教職員数について
- ③ ICT機器の活用について
- ④ 今後の芦安地区の教育のあり方について

## 3. 学校への意見・要望・感想等<小中>

### (1) 学校経営・学校運営

- 肯定的な意見が多く、安心した。ただ、教職員の数に対して、一人一人の役割(分掌)が多いのは明らか。負担軽減に早目に取り組むべきと考える。
- 少ない人数での学校運営は大変なところもあるように思いますが、チーム(小中連携しての組織)として、協力しながら無理せず、効率的な運営を期待します。
- 芦安小中学校は県内・市の中でも小規模校であります。それにより、職員数も少なくてご苦労されています。小規模校だから少ないというのわかりますが、最低でも何人の職員が必要か？各事業を円滑に指導するには担当職員の分掌または、働き方改革における労働時間問題などに対処するには、あと何人が必要か、改めて、教育委員会に要望する行動が必要だと思えます。
- アンケート結果から、先生方の校務の多さ、忙しさがわかる。授業のための研究や研修の時間がとれないほどなのは大変だと思うので、先生の心身のためにも働き方はどんどん良い方へ変えて、先生本人の生活、子どもたちの教育のためにも心身ともに健康であってほしいと思います。

### (2) 学習指導

- 登山などの行事や学校林等の整備などで、生徒自身が自分で学習しているように思う。
- わかる授業の創造に努めていることに感謝いたします。その成果が少しずつ出てきている状況や根拠を示していただけると、わかりやすいと思いました。(小学校)宿題を含めた家庭学習の出し方と指導、および授業との関連性等を検討することで、生徒の宿題忘れが減ることを期待します。(中学校)
- 学習指導・生徒指導に未回答の数字が多いです。(小学校)

### (3) 生徒指導

- パーテーションを教室に設置している学年があると聞きました。それは、保護者の同意を得てのことなのか疑問です。事情はあると思うが、みんなが納得して生徒指導ができればいいと思います。(合意形成ができていれば、何も問題ではないと思います。)
- スマホ等の家庭内ルールを決めていない生徒が多いようですが、スマホ等をしている時間と家庭学習(宿題を含めて)のあたりにも関連はないでしょうか(中学校)

#### (4)保護者・地域との連携

- 保護者間の連携やコミュニケーションができていない時もあるが、行事のおかげでできていると思います。
- 今年からお祭り等が復活したので、コロナ前のように学校を中心に地域、保護者とのいろいろと連携がとれるようになるといいと思います。

#### (5)学校の特色ある取組

- 登山や学校林整備、児童会活動は、一人一人が目立つ場があるよう工夫されてよいと思います。
- 自然体験学習はとても大切な経験であると思います。これからも頑張って取り組んでもらいたいです。

#### (6)その他、気づいた点など

- 学校の先生方、どうか働きすぎにはご注意を。
- 子どもたちのあいさつがとてもさわやかで、うれしいです。
- 保護者と地域の連携について、芦安地域に勤務されている地域支援員等を運営協議会に委員として参加させたら、どうか？

## 4. 分析・評価

- 自己評価に関して学校運営協議会委員の方々から得られた指導・助言・感想等を真摯に受け止め、1つ1つの項目について児童生徒の実態を踏まえて具体的な手立てを講じながら学校運営の工夫・改善を行うとともに、学校教育目標の実現に向けて「芦安郷育」及び「小中一貫教育」をさらに推し進めていきたい。
- 今年度は、校内研究のサブテーマを“個に応じた授業づくり”として、小中教職員が課題別に所属し、小中合同で研究を進めている。児童生徒の実態をもとにした授業づくり(やまなしスタンダード・芦安スタンダードの実践)やドリルアプリ等の一層の活用等に取り組み、児童生徒にとって「楽しい授業」「わかる授業」を実現していきたい。
- 昨年度から引き続きの課題である家庭学習の改善に向けては、「芦安小中・家庭学習の手引き」の活用はもちろん、タブレットを活用した課題(動画・画像撮影、プレゼンテーション作成、ドリルアプリ等)にも取り組み、児童生徒の自主性や調整力を育てたい。学校では、「GIGAワークブック」を活用した授業に取り組み、情報モラルも高めていきたい。また、ICT機器の長時間の利用による視力低下・悪姿勢等を防ぐための取組も進め、家庭生活の改善にも取り組んでいきたい。

- 子どもたちの人間関係づくりに不安を抱いている児童・生徒・保護者が一部いることを踏まえ、生徒一人ひとりとの対話を大切に、コミュニケーションを積極的に行うことで児童生徒理解に努めていきたい。また、不登校傾向による別室指導が必要な児童生徒や教室で落ち着いて授業が受けられない児童生徒に対して、職員全員で常に情報共有しながら丁寧に対応すると同時に、今後も継続してスクールカウンセラー等の専門家に指導・助言をあおぎ、日々の微妙な変化の見取りを大切にしながら、よりきめ細かい対応をしていきたい。
- 地域や保護者との日常の対話を大切にしながら、家庭訪問・面談・電話連絡・アンケート等で、学校への意見や要望等の吸い上げを積極的に行って学校運営に生かす。また、同時に、学校ホームページや学校だより・学年だより等で定期的に学校の教育活動の情報発信を行う。その都度、児童生徒のよさ・成長の様子、必要な情報等を、面談やメール・電話(地域には回覧板)等を使って連絡を取り合いながら、今後も継続した連携に向けて情報共有を図っていきたい。
- 芦安小中学校の特色である自然体験活動として、これまで学校林整備・自然パトロール・自然学習・全校登山等の活動を関連団体と連携しながら、計画的に仕組むことができた。しかし、児童生徒の実態やコロナ禍での影響(体力の低下等)を考えると、今後も同様な活動を仕組んでいくことが難しい。年間行事の見直しも含め、児童生徒の実態に合った実施方法を考えることが「持続可能な学校づくり」につながる。